

# 荒川新聞

## 第66回

### 荒川支部定期大会

区移管以降、荒川区が新規採用を行ったのが、2001年の1名のみで、退職不補充が続いて



任長	任部	掃合部
責員	責伝	清組支
行委	宣	京働川
行集	育	東労荒
発執編教	東労荒	

2011年11月20日  
第7号

いる。ペットボトル・資源回収・粗大収集が全面委託されている。この状況では、この職場で死ぬまで家族を養い働き続けることができるのか、不安はつのるばかりである。

今年の大会以降、支部の最重要課題であった「清掃事業の将来の在り方について」、労使協議を重ね当局への要請行動を行い、やっと今年3月、当局より「現在清掃事業に従事している職員については将来、普及啓発・指導業務等、知識・経験等能力の活用を図っていくこととし、具体的な体制については状況の変化を見ながら必要に応じて検討する」という回答が得られたので一定の区切りをつけたが、闘い続けていかなければ我々の将来はない。

「23年度作業計画」で

## 特大集号会

は、ごみ減により「小プW1セット減」、人員について足りない分は「車付雇上小プW7セット導入」が示された。機関運営の結果、やむをえず受け入れを行った。「24年度作業計画交渉」の最中であるが「23年度同様の計画」が示されている。しかし、人員については来年も退職があるため、車付雇上の拡大が懸念され厳しい闘いが想定される。

昇任選考の主任設置基準についても、上限28人の約束が今年度末で終了する。仕切りなおしの協議を早急に行わなければならない。

その他、闘いの課題は山積みであるが組合員一人ひとりが団結し、本部・地連に結集し、闘っていかねば私たちの生活は守れない。

【執行委員長・田中実】

2011年10月22日(土)に荒川支部第66回定期大会が行われました。

現在、私たちを取り巻く情勢は大変厳しい状況にあります。昨年度の作業計画は欠員14名という異常な人員配置で行われました。今年度は、欠員



が多すぎて車付雇上が入されました。これは、展望なく退職者不補充を続けてきた当局の清掃事業の無関心の結果です。

給料では9月30日に人事院が国家公務員の給与について、月例給を平均899円(0.23%)引下げ、一時金については、昨年と同様に3.95月に据え置くという給与勧告を行いました。

この他にも数多くの課題・難問があるわけですが、荒川区清掃事務所に働く、全組合員が一致団結しなければなりません。ともに頑張りましょう。

【副執行委員長小林豊】

